

## 伊東忠太が手掛けた現存する数少ない邸宅建築

### 荻外荘の内部構造の様子を動画で公開しました

昭和戦前期に内閣総理大臣を3度務めた近衛文麿の旧宅であり、令和6年12月の公開を目指し、復原・整備プロジェクトを進めている「荻外荘（てきがいそう）」。  
今夏から着手した復原整備工事で、創建以来約95年ぶりに明らかになった「荻外荘」の内部構造の様子を動画で公開しています。

約8年の検討期間を経て、この夏から復原整備工事に着手している「荻外荘復原・整備プロジェクト」。「荻窪会談」に代表される、昭和戦前期の政治の転換点となった重要な会議を数多く行った客間は、当時度々新聞等で報道されるなど、「荻外荘」は首相官邸さながらの役割を果たしていました。この客間を含む建物の東側半分は、近衛亡き後の昭和35年、豊島区巣鴨に移築されましたが、杉並区では、この移築部分も含めて、近衛居住当時の姿に復原するため、巣鴨の建物を一度解体し、荻窪へ運搬の上保管していました。この部材は現在、福井県永平寺ゆかりの大工工場へ運ばれ、調査と補修が進められています。



一方、荻窪に残されていた建物の大部分については、部材を丁寧に取り外す解体作業を行っています。この過程で、創建以来約95年ぶりに、荻外荘の内部構造が明らかになりました。日本を代表する建築家、伊東忠太の設計によるものであり、今後復原整備工事が進むと、再び壁などで覆われて見ることができなくなることから、解説付きの動画を制作して公開することとしました。

創建時は、大正天皇の侍医頭である入澤達吉の個人宅だったこともあり、内部構造を知ることができたのは、非常に限られた人のみだったと考えられます。その貴重な様子を多くの方にご覧いただければと考えています。

動画タイトル：荻外荘（てきがいそう）の内部構造

動画 URL：<https://youtu.be/SQBxMv14jgI> (YouTube 杉並区公式チャンネル)

動画制作：株式会社文化財計画保存協会

#### 【問い合わせ先】

都市整備部荻外荘担当：03-3312-2111 内線3431

総務部広報課：03-3312-2111（代表）